

このコーナーでは、農業のちょっとしたコツを、市の営農指導員からお知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員 若山 謙

野菜の連作障害対策

連作障害とは

ナス科やウリ科、アブラナ科などの特定の野菜を、同じ場所です長年栽培していると生育が悪くなったり、枯れてしまったりすることがあります。この現象を「連作障害」といいます。連作障害は過去に作った野菜や使用した肥料により、土壌中の成分バランスが崩壊することや、病害虫が発生することによって起こります。

連作障害を防ぐには

①有機物の投入

緑肥作物（トウモロコシ、エン麦など）や堆肥などの有機物を土壌に投入し、土壌中の微生物を増やすことで、病害虫の発生を抑制できます。

②適切な施肥管理

作物の生育を助けるため、土壌診断を行い、野菜の生育に応じて必要な施肥（肥料をやること）を行います。

③コンパニオンプランツの活用

2種類以上の野菜を近距離に植えて栽培すると、生育が良くなる、病害虫が減るなどの効果が現れる

ことがあります。そのような関係にある野菜同士のことを「コンパニオンプランツ」といいます。例えば、ウリ科の場合には蔓割病を防ぐために葉ネギを植えることがあります。

④輪作（ブロッコローテーション）

毎年どの場所でも何を栽培するかを十分に計画し、常に科が異なる野菜を植えるようにします。

⑤接ぎ木苗の活用

果菜類の栽培で連作障害が心配な場合は、接ぎ木苗（2種類の作物を接ぎ合わせ、両方の長所を兼ね備えた植物の苗）を植えることで軽減できます。

連作障害の出やすい野菜と出にくい野菜がありますので、次を参考に栽培プランを立てましょう。

連作可能

エダマメ、カボチャ、コマツナ、サツマイモ、タマネギ、トウモロコシ、ネギ、ニンジン、ズッキーニなど

1年休む

カブ、ダイコン、ホウレンソウ、ミズナなど

2年休む

バレイシヨ、ハクサイ、キャベツ、ブロッコリー、レタスなど

3〜4年休む

キュウリ、サトイモ、トマト、ナス、ピーマン、ソラマメ、スイカなど

問い合わせ

農業振興課農業振興係

☎0824・73・1131

庄原が好き



カフェクラウド オーナー 島津 夏菜さん

このコーナーでは、人と人とのつながりや暮らしのストーリーを、シリーズで紹介しています。まちを知り、地元の新魅力を発見することで、人を、まちを、もっと好きになりますように。

など思うので、そのような機会をいただけたことにも感謝しています。

カフェをオープン

福岡県出身の島津さんは、庄原市へ移住し、カフェをオープンしました。カフェオープンのおかげになったキーパーソンとの出会いについて、お話を聞きました。

キーパーソンとの出会い

学生時代は、県立広島大学庄原キャンパスで、農林業ボランティアサークル「ファーマーズハンズ」に所属していました。サークル活動でお世話になった方に、レストランオーナーの真鍋敢さんを紹介していただきました。真鍋さんには、お店でアルバイトをさせていただいたり、大学の友人と一緒にホームパーティーに招待していただいたり、たくさんお世話になりました。

真鍋さんのお店で働きながら、いろいろな方からお話を聞いたことで、庄原に住むことをリアルに感じられたか



今回は島津さんにとってのキーパーソン、バー・真鍋敢さんにお話を聞きます！

SNSの投稿募集中
「#庄原が好き」
で投稿！



投稿を
チェック

問い合わせ

自治定住課定住推進係

☎0824・73・1257